

タイとミャンマーにおける軍部と経済権益 軍はどのようにビジネスを支配してきたのか

THE PREVALENCE OF KHAKI CAPITAL IN THAILAND AND MYANMAR

日時：2026年8月6日（木）15:00-17:45

場所：愛知学院大学 名城公園キャンパス 7702教室

対象：教職員・学生・一般（参加無料）

使用言語：英語

＊講演後、司会より日本語で内容を要約します。質疑応答では日本語での質問にも対応いたします。

プログラム

15:00 開会挨拶 竹田真紀子（総合政策学部）

15:10 講師紹介 太田滂吾（総合政策学部2年生）
新井桜子（総合政策学部2年生）

15:20 特別講演
講師：ポール・チェンバース博士（米国オクラホマ大学）
討論者：山旗張星允（総合政策 研究科）

17:05 Q&A ディスカッション

17:35 閉会挨拶 竹田真紀子

説明責任を十分に果たさない軍は、抑制のきかない寄生的資本主義を通じて、国家経済を食い物にすることがある。文民政府が軍を統制できない、あるいは統制する意思を持たない状況では、軍は政治的自律性を保ちながら、経済的権益を拡大していく。タイとミャンマーの軍は、こうした構造のもとで、略奪的な「軍部系資本主義」を発展させてきた。タイ軍は王室の守護者としての役割を根拠に経済資源の蓄積を正当化し、ミャンマー軍は国家安全保障を名目として、軍事予算とビジネス権益を拡大してきた。こうして形成された軍の経済的権益は、文民政府のもとで脅かされそうになるたびに、繰り返されるクーデターによって守られてきた。近年では、タイの2014年クーデターとミャンマーの2021年クーデターがその例である。両国の軍は、自らの既得権益と政治的影響力を維持するために権力を握り直し、脆弱な文民統制から自立した存在であり続けてきた。本講演では、タイとミャンマーにおける「軍部系資本主義」の形成、浸透の程度、そして今後の展開について検討する。



Dr Paul Chambers

Visiting Research Scholar,
Center for Southeast Asian Studies
(CSEAS), Kyoto University, Japan

Lecturer,
Department of International and Area
Studies, University of Oklahoma, USA

Associate Senior Fellow,
ISEAS-Yusof Ishak Institute, Singapore

Sponsored by:

The Policy Studies Association,
Faculty of Policy Studies,
Aichi Gakuin University

